

学校経営方針

【学校教育目標】

未来永笑

～互いを認め合い、共に高め合う 山階南～

【めざす子ども像】 (知) 共に考える子 (徳) 共に認め合う子 (体) 明るく元気な子

【めざす教職員像】 ○子どもの成長に寄り添い合える 教職員
○よきモデルとなる教職員

【めざす学校像】 ○家庭・地域・教職員が協働し、子どもを育む学校

【学校経営目標の具現化に向けたグランドデザイン】



「自己指導能力」とは

深い自己理解に基づき、主体的に問題や課題を発見し、自己の目標を選択・設定して、この目標の達成のため、自発的、自律的、かつ、他者の主体性を尊重しながら、自らの行動を決断し、実行する力

学校運営の柱　～全教職員が進める確かな学校教育～

1 子どもの命を守りきる

いのち

- ・子どもにとって「安全な場所」であるための組織体制や教育活動の推進
～いじめ、体罰・暴言、事故を許さない学校づくり～
- ・「見逃しのない観察」「手遅れのない対応」「心の通った指導」
- ・事故・怪我の発生時に迅速かつ適切な行動ができる組織づくり

2 「困り」を抱える子ども一人一人に対する支援を行う

よりそい

- ・「個別の指導計画」等の利用による切れ目のない個に応じた指導
- ・ユニバーサルデザインを意識した学級経営・環境の見直し
- ・不登校児童への組織的・計画的な取組の遂行
- ・「よりそい」「導く」意識を中心とした指導

3 すべての教職員がカリキュラム・マネジメントの視点をもって実践を進める

つとめ

- ・総合的な学習の時間を中心にカリマネを構築
- ・PDCAサイクルの展開
- ・ICTの活用方法を模索し、「共に深め合う」授業の実現
- ・自ら学びを深め、協働して学びを広げる「学び方」の改革

4 教育者として職責を自覚し、専門性を高めるとともに、働き方改革を進める

つとめ

- ・学び合い高め合う風土
 - ・風通しのよい職場づくり
- (理科、音楽の専科・学年内での教科担当等の推進)

5 保護者・地域と連携・協働した取組を推進する

ひろがり

- ・PTAや学校運営協議会との協力や参画…「社会に開かれた教育課程」
- ・学校評価による見直し
- ・放課後まなび教室、児童館等との連携
- ・ホームページ・すぐーる等での情報発信（毎週発信）

6 校種間連携。接続を推進する

つながり

- ・小中一貫教育（言語活動）<本校：対話力の向上>
- ・スタート・カリキュラム
- ・キャリア形成の取組…「生き方探求パスポート」

7 関係機関など社会と連携した総合的・継続的な支援を展開する

- ・SC、SSW、児童相談所、はぐくみ室、スクールサポート（山科署）等との連携
(子どもの虐待等の通告義務)

つながり

【重点取組】

(1) 生徒指導の4つの視点を生かした「対話」のある教育活動を通して、「自己指導能力」を育む。

- ① 4つの視点（共感的な人間関係の育成・自己決定の場の提供・自己存在感の感受・安全安心な風土の醸成）を生かした対話の充実
- ② 基礎基本の定着（指標となるテストの意識）
- ③ 「学ぶ楽しさ」「できる・わかる喜び」「思考力・表現力」を育む授業の展開
- ④ 「教科の本質」につながるようにICTの活用や言語活動の工夫による学びの質の向上

(2) 全教育活動で道徳的な学びを取り入れ、自他を大切にする態度を育成する。

- ① 命を大切にする心や他人を思いやる心、感動する心など、子どもの豊かな人間性の育成
- ② 人権尊重の精神を基盤に、互いに認め合い、励まし合う集団作り
- ③ 「命を守る」視点から薬物など危険から身を守る方法、いじめは絶対に許されないことについての指導の徹底

(3) 「公共の精神」に基づく態度、「自らを律する力」を育成する。

- ① 人と人の絆や人のために役立つことの大切さを実感し、社会の一員として必要な公共心や公徳心の育成
- ② 規範意識を高め、自分で考え、正しい判断ができるようになるための素地の育成
- ③ 自らの行動で課題を解決したり社会貢献したりするなど社会の形成に主体的につながる意識と行動力の育成

(4) 自学自習の習慣化を図り、学び方を見直す。

- ① 家庭学習と授業を連動させることによる自学自習の習慣化
- ② ICTを活用した家庭学習で、学び方の見直し
- ③ 子ども自ら学習計画を立て、予習・復習の意識の明確化

【生徒指導の実践上の4つの視点】

◆ 生徒指導の実践上の4つの視点

- 一人一人の子どもを徹底的に大切にする
- 主体的・対話的で深い学びの実現

共感的な
人間関係の
育成

自己決定の
場の提供

自己存在感
の感受

安全・安心な
風土の醸成

「対話」を通して、自己指導能力の獲得をめざす